

# 自公連だより

◎第7回目の公民館長会が10月14日午前9時からしいたけの館で開催されました。協議最初の役場各課、関係機関連絡事項について、

## 総務課から

11月9日に衆議院議員総選挙と最高裁国民審査の投票が行われるので、棄権しないで投票率がアップになるよう協力依頼があつた。次に訪問販売等について、高齢者による契約のトラブルが発生したので、地域を上げての協力をお願いすることです。

## 企画課から

防災行政無線放送取扱の改善について、現在検討中で従前よりは使い勝手がよくなるようです。割引商品券発売については10月16日から商工窓口に販売しており売り切れ次第終了する。第5回黒呂もみじ祭りが11月8日に行われるので多数の参加を願います。諸塚村文化祭について、11月15日と16日に行われ、15日は前夜祭として駄賃付け唄大会、文化協会による生涯学習発表大会、大衆

演芸「いろは座」による公演など、翌16日は例年どおり体育館で産業共進会・作品展示がありグラウンドでは高橋静山の公演や石原詢子ショー等が予定されております。又、公民館ふるさとバス支援事業について、各地区の祭りに各公民館出身者等を参加対象者に日向市、延岡市・宮崎市から日帰り往復バスを運行し祭りでのバス借上げ料を全額補助する等の説明がありました。

## 建設課から

農村環境計画でアンケートを200人ほどに実施するとのこと。次に、道路管理実態調査について、今後の道路行政の参考として活用するため、一斉清掃で清掃している道路、一斉清掃では清掃していないが受益者等で清掃している道路、草刈などしていない道路について調査を行うとのこと

## 産業課から

FSC森林認証制度について、森林認証とは、森が健全であるか、森が

正しく管理されているか、森で働く人たちの暮らしが守られているかなどを世界的基準で審査されるもので森林認証を取得すると次のような3つの利点があります。

### ① 森林管理の質が利害関係者、顧客、投資家などに對して第三者から保証される。

### ② 適切に管理された森林で生産された木製品を求め市場に参入することができる。

### ③ 森林管理において適切な方法を実行していることが表明できる。

と言う事で現在取得しているところの例を見ると、値段的な効果は出ているという事です。諸塚村では森林全てを対象に認証を受けたいと思っておりますので全ての森林所有者の皆さんの参加とご協力をお願いします。尚、3月18日と19日に行われた模擬検査の経過等によります、諸塚村のものづくりは、FSCの森林認証に十分値し、国内の認証取得森林の中でトップレベルであると推察されるという審査員の評価とすることです。認証をうけることを目的と考えずに、私達の森林は認証を受けて当然であるとい

った考えで取り組んで行きたいと思えますので今後とも村民の皆様のご協力をお願いしますとの説明がありました。

## 教育委員会から

公民館のあり方検討委員会について、九大佐藤先生を中心に職員8人で行検討を進めており、年内に答申を出しその答申を叩き台に、自治公民館連絡協議会等で十分協議し1年間ほどの移行期間を経て実施段階に移るとのことです。村民体育大会の反省については、天気が悪く判断が難しかったと思うが、6時30分までは遅すぎるので、6時まではお願いします。

## 日向土木事務所諸塚駐在所から

駐在所の概要、道路改良事業の概要、現在施行中の工事内容等についての説明がありました。国道327号古園第1トンネルが平成15年度中に供用開始予定で、恵後の輪バイパスは平成16年度中には、全体区間の完成予定だそうです。503号吐の川トンネルが平成16年2月末に完成予定との説明がありました。

処理費用として1キロ100円かかるのとことです。来年3月に総代の改選となっている。又、加工場で原木が不足しているので山床にあるものは出して下さいとのこと

## 森林組合諸塚支所から

総代に39名の届出があり10月10日に決定した。次に使用残農業の回収について11月12日から14日までの3日間、午前9時から午後3時まで回収

次回の館長会は、**11月17日(月)です。**協議題にしてほしいことがありましたら、事務局(6510072)までご連絡下さい。

# 宮交バスのみなさん

## 43年間ありがとう(飯干にて)

10月号の村報等でお知らせしたとおり、宮交交通は諸塚村内の路線バス運行を9月いっぱいまで一部、諸塚交通に引き継ぐことになりました。長年、村がお願いを続けて頂いたわけですが経営の合理化策の一環として一部撤退となりました。

昭和35年12月から43年間、住民の足となった七ツ

山・飯干線の宮交による運行が、こうして9月30日の午後6時10分飯干着をもって終了することになったのに合わせ、お札を込めた記念式典が飯干の停留所で地元飯干公民館の主催により行われました。

飯干だけでなく、沿線の地区から集まった多くの人達から感謝の拍手でバスは迎えられ(途中のバス停か



飯干地区等の皆さんに出迎えられた宮交バス



花束の贈呈を受ける運転手さん

ら乗ってきた人達もいました。)飯干公民館長さんのあいさつ、中学生代表の感謝文の朗読、運転手さんへの花束贈呈と記念品贈呈が行われました。

運転手さんからのあいさつもありませんが、思わぬ催しに大変感激されています。催しの後は皆さん思い思いにバスの前で記念撮影をしたり、運転手さんに言葉を掛けたりと、別れを惜んでいる様子でした。そしてたくさんの花束とお客さんに乗って帰ろうというバスは飯干を後にしました。

バスが往復する途中には何人もの人が立ち、最後のバスに手を振り、頭を下げる姿、花束を渡す姿が見られ、非常に印象に残りました。そこには、皆さんの優しさで強い感謝の気持ちとが現れており、人との繋がりを大事にしている飯干や七ツ山沿線の人達の気持ちが見て取れました。



本当にありがとうございました



みんなで記念撮影

# 紅葉の頃

孝

今年もまた秋の野山を彩る紅葉の季節が訪れました。この季節の野山の様子をお隣の中国では「明浄にして粧うが如し」というそうであります。つまり色とりどりの紅葉で山全体がまるでお化粧をしているようだというのです。春の桜の開花は低地から高地へと移りますが紅葉は逆に標高の高いところから低い地帯へと移動します。これは気温のなせる術ですから当然のことなのです。ですから、木の葉が色づき始めるのは本村に限つていえば標高の一四五五mの黒岳や一三四一mの諸塚山あたりからその前線は降りてくることとなります。察するにじつと観察をつづけていた黒岳と諸塚山の神様が「大分気温が下がってきたがぼつぼつどうじゃやろかい」「もうええばい」の話し合いで一斉に紅葉が始まるんだらうと思います。♪秋の夕日に照る山もみじ……♪という文部唱歌があります。あれは山全体が紅葉するとか、或いは個のもみじそのものなのか私には解りません。ただ、もみじにまつものは多いようです。そして何故かもみじは鹿との取り合わせが多いのが面白いところです。花札のもみじ鹿をは

じめ紅葉鳥といえは鹿の異称であったり、鹿肉の料理はもみじ鍋、鍋物料理に欠かせない調味料はもみじおろし、少し変つたところでは、もみじのような手といえは赤ちゃんの小さな可愛らしい手であり、もみじを散らすといえは少女などが恥ずかしさに顔を赤らめることだという(もつとも最近はその少女は数少ないと思うが……)

さて、最近自から行動することにより自然に接し自然に学び己の生活に或いは生きて行くことに潤いを求める人たちが多くなつたことは喜ばしいことです。そこで大切なことは、このかけがえのない故郷の自然をもう一度しっかりと見つめ直しそのすばらしさに自信と誇りを持ち後世に残して行く努力が必要と思われれます。

十一月八日には第五回黒岳もみじ祭が開催されます。村外からも多くの皆さんの参加が期待されます。紅葉は自然の織りなす束の間のこと、この美しさを満喫しながら行く秋を惜しむためちよつと出かけてみたらどうでしょうか。

## ガンにも効く笑いと健康

(寿学級から)

9月末に開催された寿学級の記念講演で、昇幹夫先生の話を聞いた。先生は麻酔科、産婦人科の専門医で「日本笑い学会」副会長という肩書きもある。

笑いと健康については今までも話を聞いたり、本なども多く紹介されているが、先生の話の中では実際に医師から見離されたような患者等で治療した人たちが百人と、ガン、ガンの闘病者千人を一同に集め「ガン生還者に学ぶ千人集会」が開催された話もあった。

そしてガンは生活習慣を変えることでたいがい治るという事例、特に笑うことによってガン細胞を減ぼす「NK細胞」が増殖されるなど、スライドを使いながら実例を引用された。「笑う門には福来たる」、産婦人科医である先生は卑近な体験と、巧みなユーモアを交えながら会場を笑いで盛り上げた。

食物と健康の話では、日本古来の和食から、ラーメン等既成食品依存の若い世代でも多くなり子供の総入れ歯も見られるという。糖分

の多いジュース類は、特に3歳までは与えるなどのこと。人の味覚は10歳位までに決まるともいう。

考えてみると諸塚でも若い世代では和食離れが進み、既成食品の容器や空き缶などが大量のゴミとなり、環境を汚染しつつあるのが現状ではなからうか。また、たいがいの家では高齢者が野菜作りをしているが、これを先ず一番利用して欲しいのは子供の食事担当の若い母親達。子供の将来のために……

ちなみに私は出張の際などでできるだけ自家用の茶か水を容器に入れて持参している。

尾形 森倫



第5回

開催



内容

1日程

平成15年11月8日(土)

2場所

宮崎県東臼杵郡諸

塚村大字七ツ山

小原井 黒岳登山

口広場

3時間

8時30分、

受付開始

9時30分、

開会行事

ウッドカット後登

山開始

昼12時、

下山後交流会

アトラクション・

神楽・ヒツ山太鼓

(予定)

※時間及び内容が変更

する場合があります。

4主催

黒岳もみじまつり

実行委員会(会長

甲斐春三)

5後援

諸塚村 諸塚村観光

協会

※特産品の販売を予定

しています。

ボランティアアザマリ



諸塚村に来てから半年が過ぎ、活動期間も残り5ヶ月となりました。9月までの約2ヶ月半は森林組合で、現在は畜産センターで活動しています。いろいろな場所での活動で諸塚の皆さんに徐々に覚えてもらうことができていると実感しています。

では、10月の自分の活動を紹介します。畜産センターでは、牛を養つたり機械の操作をした

り体温を測つたり様々です。中でも一番印象に残っているのは、飯下峠に放牧されていた牛を畜産センターに運んだことです。センターでの活動初日だったこともあり、牛を間近で見たりも初めてだったので、午前中は牛が怖くてどうしようもなかったことを覚えています。午前中に4頭、午後には5頭を運んだのですが午後にはある程度慣れて牛を引くことができていました。今ではもう大丈夫(?)だと思っています。

平日以外では村民体育大会に白団で参加させていただいて、ムカデ競争と公民館団技に出たりお昼もご馳走になり楽しい1日を過ごすことができました。

これから諸塚の秋、冬を初めて経験することになりますが、どんな行事があるのか、どんな景色が見られるのか今から楽しみです。活動自体は残り半分ですが、よろしくお願ひします。

ふるさと協力隊 片平 樹

耳川広域森林組合 諸塚木材加工センター価格表

平成15年11月1日～11月30日分 (東郷センター10/20市況より)

樹種：杉A(直)

樹種：杉B(曲がり)

樹種：檜A(直)

樹種：檜B(曲がり)

Table with columns: 長さ, 樫区分, 市価格. Rows for 3 and 4 length categories.

Table with columns: 長さ, 樫区分, 市価格. Rows for 3 and 4 length categories.

Table with columns: 長さ, 樫区分, 市価格. Rows for 3 and 4 length categories.

Table with columns: 長さ, 樫区分, 市価格. Rows for 3 and 4 length categories.

樹種：杉・檜C

Table with columns: 長さ, 樫区分, 市価格. Rows for 2 length categories.

\*加工場に材が不足しています。出荷をお願いします。 \*4m母屋材が不足しています。母屋の造材をお願いします。

# 諸塚再発見

シリーズ第3回

## 立岩伊友・中村地区



### 1. 伊友・中村地区へ

役場から、県道50号線を本立岩方向へ進むと、約1キロ、上長川地区で、立岩小学校方面との別れ道を、桂方面の林道へと上がっていきます。道沿いに数軒の民家が見られますが、半分程は空き家になつています。

途中、桂集落方面との分かれ道を伊友林道へと進み、さらに与狩内林道との分かれ道を伊友林道方向に曲がれば、次の分かれ道は右に行けば中村集落、左に行けば伊友集落に突き当たります。

### 2. 生活をする人々

西地区とも上長川から約8km、役場からは約20kmです。

中村地区は現在2軒あり、1軒は杉山福一さんが、奥さんの福美さんと生活しています。

取材日は集落から200m程下の道沿いで、お2人で杉の伐採作業中で、現場で話を聞くことが出来ました。息子さんが2人、娘さんが1人おられ、10年ほど前からは月の3分の1ほどは延岡の息子さんの所で過ごし



杉山 福美さん、福一さん

ておられるようです。

お年を聞くと、なんと83歳。しかしチェンソーを扱う姿はまだまだお若く、楽しみは山で仕事をすることとおっしゃっていました。それと少しの晩酌も、のようです。

杉山家は福一さんで7代目になるそうです。家に残る資料に「安永五年(1776年)」に、住人「十人」という記述があり、当時の中村地区の住人数が分かりますが、軒数はなく、福一さんが確認できただけでは4軒だったそうです。

昔は焼き畑を主にやっており、換金作物としてはお茶、それと高級和紙の原料の樹皮(こうぞの皮)だったそうです。しいたげは、福一さんの祖父の代から栽培していた



山口 満正さん

そうです。福一さんの代では主に作業班を編成して林業をやっていたそうです。

もう1軒は山口満正さん。林業を営んでおられ、かつては作業班の仕事にも出られていたようですが、現在は自営のみだそうです。山口家は、与狩内地区の山口家から分家してきており、満正さんが3代目になるそうです。誰もが認める、日本一「霧島」(飲むほう)に愛された人で、いくら飲んでも二日酔いさせてくれないそうです。また誰からも親しまれる人柄で人望も厚いようです。

青年時代は名マラソンランナーとしても名をはせた満正さんは、今は仕事に飲み方に持久力を発揮し後輩の指導にご尽



山本 光男さん、イサヨさん

力されています。(筆者もご指導賜りました)

伊友は山本光男さん1軒、奥さんのイサヨさん、農協に勤める、息子の勝さんの3人です。2人の娘さんのひとり、八千代さんが諸塚病院で、もう一人のしげ子さん(が東京におられ、共に看護師さんです)。

数年前まで伊友は2軒でした。過去には3軒あったそうです。

山本家は光男さんが7代目になり、その昔はやはり、焼き畑をしていました。田や畑も作っていたそうですが、伊友周辺は水が冷たく、比較的日照時間が短いため等々では余り良いとはいえず、自給用も不足することがあり、買い求めねばならない場合もあつ

たそうです。換金作物として、杉山さんの話と同様に、焼き畑に作った茶(釜炒り茶)や、樹皮をきくらげ、そして固圀裏の灰を売っていたそうです。灰は麻を洗うために使われていたそうです。H之影で売っていたようです。

光男さんは、祖父の代から始めた椎茸栽培、それと林業に長年従事していましたが、近年体調を崩され、山仕事はあまり出来なくなつたとのこと。椎茸の話ですが、昔の炭で炙るムロでは、今の強制送風の乾燥機のような能力は無かつたため、いわゆる「水なば」を採ることはまずなくなつたそうです。車道が通つたのは昭和37年、電気が通つたのは昭和22年だそうです。電気を通すための費用は個人や、集落の負担だったそうで、当時約12万円の費用が掛かつたそうです。今でこそ当たり前のように電気やその他便利な道具に囲まれて生活していますが、先輩方がそれを得るために一つ一つ苦労しておられたんだなと思えます。

## 終わりに

取材の際には、皆さん本当に快く、また丁寧に迎えていただき恐縮しました。どこに行つても感じるのですが、最初は「取材」と言う、「えっ」という反応があるのですが、すぐに快く応じていただけるのは、サービス精神も少しはあるのかもしれないか、助けがやらないのではなにかと思うので、だから、こつちが勝手に押しかけていても「お疲れさま」とか、こちらが押しかけて申し訳ないのにあちらから「何もなくて申し訳ない」といったことを言われず。そんなときは、氣遣つていただいてあげたい、申し訳ないという気持ちと、来てよかつたという気持ちになります。集落の人の優しさは素朴でありながら熱いものです。諸塚から無くしてはならない、伝えるべきものの最有力候補ではないでしょうか。

## 自慢の文化財

伊友には天神様の神社があり、昔は中村地区との祭りもあつたそうです。2枚の鏡が御神体で、他に木像が数体祀られていますが、奉納札では村内に残っているもので最も古い、元禄2年(1689年)のものがあり、木像自体もかなり古いものが祀られているようです。



伊友天神社



祭られている木像

## 建設業協会から「アネモネ、クロッカス」球根の寄贈

建設業協会では、11月18日の「土木の日」にちなんで各地域における花いっばい運動で鉢つきの球根を配布することになり、日向地区建設業協会諸塚支部においては村内5つの小中学校で育てていただきたいということ。このほど支部長の金丸正治さんから教育委員会に球根200セットの寄贈がありました。

各学校では、これから先花が少ない時期になるので、大事に育てて来春にはりつばな花をさかせたいと大変喜んでいました。ありがとうございます。

日向地区建設業協会諸塚支部  
 (株)菊池建設・興洋開  
 発株・有大建設  
 水本建設(株)・(株)金丸  
 建設・(株)太伯建設・  
 (有)綾建設・(有)グリ  
 ン開発



寄贈されたアネモネの鉢



金丸支部長から財部教育長へ